

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>マキシマム・カオス</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.480</b>	△RG <b>0.054</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：マキシマム・カオス**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

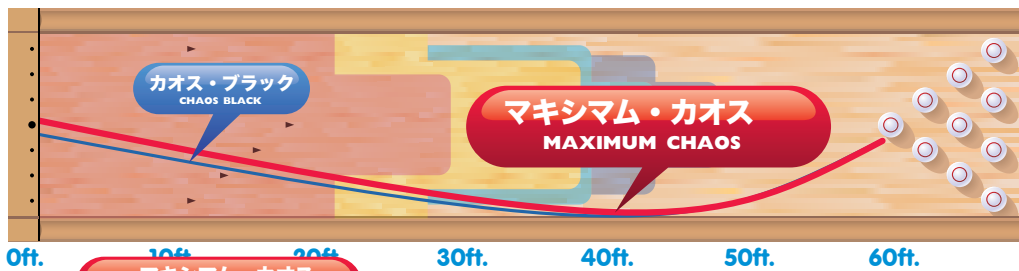
PAPからピンとの距離  
**4-1/2** インチ

**比較対照ボール：カオス・ブラック**

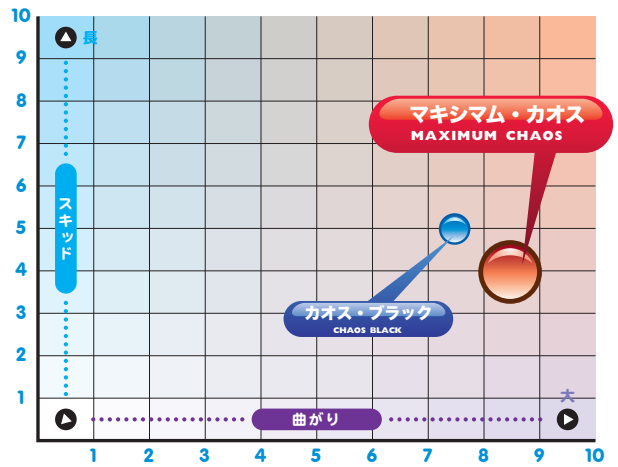
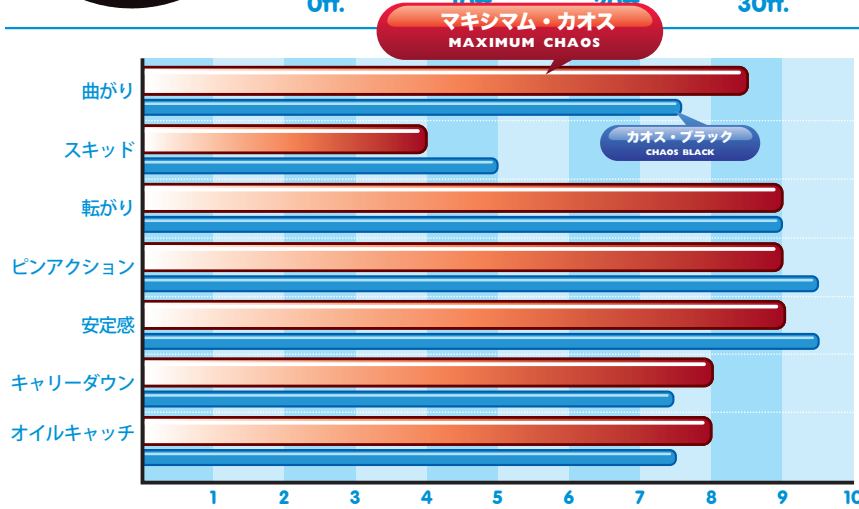
フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離  
**4-1/2** インチ



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

日本で完全監修したのMOVEMENTからColumbia300のカバーストックは一新し、オイルに強く、しかもしっかりとスキッドするボールへと進化しました。特に入射角の強さは磨きがかかり、Hyper Shock Technologyとの相乗効果とも言えるピンキャリアは絶大と言っても過言ではありません。その進化の証として生まれたColumbia300の製品を使い、今年の千葉OPタフなコンディションで優勝した久田彩花プロを支えたのがCHAOS Blackでした。

彼女の感想ではタフなコンディションで一番ラインを取りやすく、ピンキャリアまで期待できたでした。まさしくColumbia300がCHAOS Blackに求めた性能とピンを飛ばすHyper Shock Technologyとの結晶が立証された瞬間でもありました。

今回のMaximum CHAOSはCHAOS BlackのMidのキャッチからバックエンドでフリップ感を伴う動きから一変し、さらにオイルに強く、キャッチ系のMidから”寄る”イメージを全面に出した仕上がりです。ERT Solidと名付けられた新しいカバーストックは、噛みすぎを抑えながらトラクションを出すために新たに添加された配合で、テストングをして感じたのが、オイルの薄い部分へ出して戻すというイメージよりは、オイルを使いながらタイトなラインを好む傾向にあると感じています。

また走り系でバックエンドが急激にでるボールだとリアクションが暴れる傾向にあるアジャスティングにおいて攻めやすさが格段に上がるボールで、”曲がり収まる”イメージでポケットヒット率が高くなるように感じましょう。

ご存知の通り、Columbia300とTRACKはEBI工場(ケンタッキー州ホプキンスビル)からメキシコへ完全移行されました。その移行前の最後のスペックとも言えるボールの一つがMaximum CHAOSです。

極少量の入荷ですので早いもの勝ちになると思いますが、ご堪能ください。

### 特記事項

**EBI最終スペックでごくわずかな入荷のみ。希少価値が上がるほどの少量ですので迷っている時間はありません。必ず手に取り、性能をお試しください。**